

主体性を発揮する生徒を周りは

「私作る人、僕食べる人」

私が中学生の時ですから、ずいぶん前ですね。もちろん皆さんは生まれていません。某食品メーカーのカラーのCMに使われていたこのセリフが、ある日突然聞かれなくなりました。テレビや新聞でも話題になったので、私は今でもはつきりと覚えています。

なぜ話題になったかわかりますか。当時は「えっ、そうなの!」とびつくりしましたが、現代なら話題になって当然のことのように思えます。放送打ち切りになった秘密はどこにあるのでしょうか。

このセリフが男性と女性の役割分担を決めつけているということが、打ち切りの理由です。女性が(カラーを)作り、男性がそれを食べるという当時当たり前とされていた考え方に異議を唱えたことは、現代のジェンダーの観点から言っても、大変意味あることです。

「性」という観点ばかりではありません。人間にとって本質的な平等が、これからはあらゆる場面で求められると思います。そういう観点で北中の「主体性」を考えた時、気に留めておいてほしいことがあります。それについて次に書きます。

北中にはいろいろな生徒がいます。「主体性」と言われただけで、実際にそれをすぐに行動に移すことができる生徒。「主体性」と言われても、具体的にはどうしたらよいか思い悩む生徒。そして、「主体性」と言われても、なかなか理解できず、行動に移せない生徒。一人一人顔や考え方が違うように、「主体性」という観点から見ても、人それぞれです。

ここで心配するのが、「私美しくする人、私汚す人」「私片づける人、私乱す人」というように、「主体性」を發揮している人が、バカを見るような状態ができてしまうことです。

「主体性」を發揮して、汚れに気付いて掃除している仲間がいる一方で、心無い汚し方をする仲間がいる。教室やロッカーの整理整頓をする仲間がいる一方で、毎日私物が片づけられない生徒がいる。こうなると、「主体性」はいずれ影を潜めていくかもしれません。そういう状態になることだけは絶対に阻止しなければなりません。

「主体性」を發揮する生徒の素晴らしさは目につきやすく、認められることも多いと言えます。そういう情報を「学びポケット」を通して、私もたくさん知ることができました。実際に、自分の目でも見てきました。

しかし、そういう情報に対して、周りの生徒がどのように思っているのかはほとんどわかりません。「主体性」を發揮している仲間を、周りの仲間はどのように見ているのか、それにもっともっとスポットを当てる必要があります。

私のメッセージを全生徒が読まなくてもよいと思いますが、「いいね」や「読みました」に名前があると、うれしくなるのは事実。次へのモチベーションアップになりますね。(三月二十二日記)